

1. 概要

日時・場所: 令和元年6月12日～6月21日 国連ウィーン本部

出席者: 加盟国92カ国代表団(議長:ブラジル)の他, 国連宇宙部やオブザーバー等

我が国からは, 北野ウィーン代表部大使, 柳同次席公使, 向井千秋JAXA宇宙飛行士, 岡田アストロスケール社CEO, 國中JAXA理事(宇宙科学研究所長), 鈴木内閣府宇宙開発戦略事務局参事官, 山口外務省宇宙サイバー室長他が出席。

米国からは, アポロ月面着陸50周年サイドイベント開催のため, スコート・ペース大統領府国家宇宙会議事務局長, ハリソン国務省上級顧問, バウアーソックスNASA長官補代理(宇宙飛行士), ホジキンス国務省宇宙・先端技術部長などハイレベルが出席。

2. 北野大使による一般発言(6月12日)

(1)宇宙デブリに関し, 加盟国に対し, 国連スペースデブリ低減ガイドラインをはじめ既存の国際ルールへの遵守を呼びかけると共に, **本年から我が国が世界に先駆けて大型宇宙デブリの除去の実証事業を開始した旨述べた。**

(2)昨年11月に施行された宇宙活動法を説明の上, 昨年ワーキンググループで合意された(宇宙デブリ低減関連を含む)**21の長期持続可能性(LTS)ガイドラインの実施の重要性を強調し, 加盟国にも実施を呼びかけた。**

(3)5月27日の日米首脳会談に言及しつつ月探査・有人宇宙活動, はやぶさ2小惑星リュウグウ着陸, 宇宙資源活動での国際協力, ISS日本実験棟「きぼう」を活用し途上国の小型衛星を放出するJAXAと国連宇宙部(OOSA)との協力プロジェクトKiboCUBE, 本年11月に日本で開催予定のアジア太平洋宇宙機関フォーラム(APRSAF), 宇宙のグローバルヘルスへの活用など**我が国の幅広い取組を説明した。**

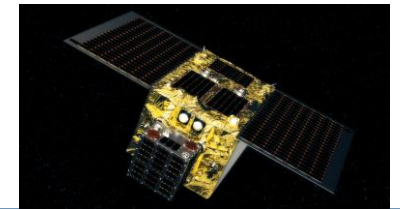


(北野ウィーン代表部大使)

国連宇宙空間平和利用委員会(COPUOS)本委員会第62会期

3. 宇宙デブリ除去に関する技術プレゼンテーション(6月12日)

COPUOS本委員会の初日に、本会議場において、岡田光信アストロスケール社CEOから、デブリ問題の宇宙安定利用に対する脅威や国際社会による取組の必要性、更には同社の先端的な技術を映像やスライドを活用しつつ説明した。



4. 宇宙デブリに関する日本主催レセプションの開催(6月14日)

国連ウィーン本部において宇宙デブリをテーマとしたウィーン国際機関日本政府代表部主催夕食レセプションを開催し、向井宇宙飛行士及び岡田CEOからそれぞれの経験に基づき宇宙デブリ問題の重要性や日本の先端的な取組などを発信しました。各国代表団等約120名が出席した。



5. 長期持続可能性(LTS)ガイドライン(6月21日採択)

本件ガイドラインは2010年からCOPUOSの場で議論が行われてきた。

本委員会初日の6月12日、日米カナダ仏の4か国が21のLTSガイドライン実施に関するワーキンググループを科学技術小委員会の下に設置するとの共同提案を行った。

加盟国間の議論を経て、6月21日、①COPUOS本委員会として21のLTSガイドラインを正式に採択すると共に、②これらガイドラインの実施及び新たなガイドラインの可能性等を議論する5年間のワーキンググループを科学技術小委員会の下に設置、が決定された。

国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) 本委員会第62会期

6. 米国代表团との会談(6月13日)

- (1) 柳臨時代理大使等は、ペース大統領府国家宇宙会議事務局長、ハリソン国務省上級顧問、バウアーソックスNASA長官補代理(宇宙飛行士)、ホジキンス国務省宇宙・先端技術部長と会談を行った。
- (2) 5月27日の日米首脳会談も踏まえつつ、**月面有人探査や宇宙デブリ問題での協力強化について意見交換**を行った。

7. デイピッポ国連宇宙部(OOSA)部長との会談(6月13日)

山口室長等は、デイピッポ国連宇宙部部長とOOSA邦人職員の活躍やKiboCUBEをはじめ我が国との協力について意見交換を行い、デイピッポ部長から**宇宙デブリ問題を含め協力の拡大について希望**が述べられた。

8. その他

本委員会において、國中JAXA理事からは**はやぶさ2のリュウグウ着陸の技術プレゼンテーション**を行った他、向井宇宙飛行士から**宇宙技術のグローバルヘルスへの活用の重要性**の発信を行った。

6月19日には、本委員会議場において、APRSAFの日本開催に関するサイドイベントを開催した。

また、会期中、我が国代表团から、宇宙と地球規模課題(水、気候変動、持続可能な開発)や探査、平和利用等について我が国の取組を発表した。

